

いまこそ反戦闘争のうねりを！

日刊

動労千葉

1988.8.5
No. 2868

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八（動力車会館）
（鉄電）二九三五・六（公衆）〇四七二（二二）七二〇七

自衛隊潜水艦「なだしお」による つり船撃沈事件弾劾！

潜水艦「なだしお」事故はなぜ起きたのか、単なる判断ミスではすまされない。軍艦がわが者顔で航行し、軍用機は日本の空を飛びかい、富士の裾野では戦車が農民達を押しつけて、闊歩している。「軍事」を最優先し、そのためならば人民を押しつぶし、海へたたき込んで突き進む。この姿こそ、日帝の軍事大国化、戦争政策そのものであり、当然起るべくして起きた大事故である。今まさに、戦争の危機が現実のものとなつてつきつづられている。日本の労働者が帝国主義に組みし、再び侵略者となり戦争へと向かつてしまふのか、それとも戦争なくして生き延びられぬ日帝・自民党政権打倒に立ちあがるのか、それが今、問われている。われわれは、カン違いしてはならない。日帝の戦争とは決して「攻め込まれる」のではなくして、必ず侵略に打って出る戦争なのである。戦争への道をキツパリと拒否しよう。八・六広島、八・九長崎反戦闘争を闘い、反戦の砦三里塚今秋期闘争へ突き進もう。

危機にあえぐ帝国主義

昨年十月のニューヨーク株式恐慌は世界大恐慌の前ぶれだ。その後の見た目の「安定」に「大恐慌は起きない」とする声もあるが、今は一時の小康状態でしかない。世界大戦前、一九三〇年代同様の世界大恐慌が今、やって来ようとしているのだ。帝国主義国の陥ちいった経済危機はもはや解決不能となり、その矛盾は世界戦争の危機に向かわんとしている。没落した盟主アメリカと日帝、そしてEC諸国との経済戦争はますます激化の一途をたどり、世界のブロック化、帝国主義国による経済圏作りへと向かつているのである。それが日帝の「大東亜共栄圏」アジア侵略に他ならない。

竹下の戦争政策を許すな！

消費税、大型間接税は巨額な軍事費、戦費調達

助けて「叫んだのに

第一富士丸の艦員何もせず乗組員が会見

釣り船と衝突

富士丸が避けると思つた

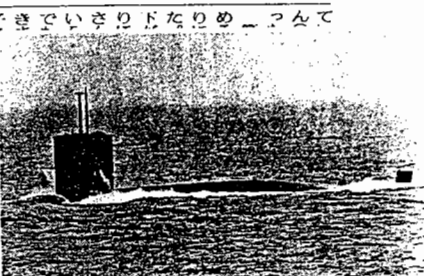
潜水艦長が供述
発見時 見込み航行認める



目撃者証言

腕組み、眺めるだけ

僚艦にも緊迫感なく



自衛隊潜水艦訓練で潜水、浮上を繰り返す潜水艦「なだしお」。このあと横須賀港へ帰還中に「第一富士丸」と衝突事故を起こした(23日午後時半、伊豆大島北東海上で)＝世界日報社・時事

全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉碎せよ！